

事業グループ成果報告書

グループ名	担当者	関連資料	
メンタルタフネスグループ	今井 正文	報告書	P98
	千賀 博巳	アンケート結果	P104
	村松 史子		
プロジェクト実践グループ (情報ビジネス学部)	三好 哲也	報告書	P110
		アンケート集計	P113
プロジェクト実践グループ (キャリアプランニング科)	今泉 仁志	報告書	P116
		アンケート集計	P118
ユビキタスキャンパスグループ	山口 満 細谷 邦夫	報告書	P121
		アンケート集計	P125
大学コミュニティーグループ	中村 隆三	報告書	P127
		送付文書	P129
		アンケート集計	P130

メンタルタフネスの育成

担当 今井正文

1. グループ事業の取組

メンタルタフネスグループでは、ストレス耐性や我慢の欠如などメンタルタフネスの不足に対応するため、セルフモチベーション、リーダーシップ、目標設定・目標達成などの理論的背景と実践的演習を組み合わせて学生自身の経験知を高める教育プログラムであるメンタルタフネス育成講座を開発・展開した。情報ビジネス学部では、2 年生 3 月に「第1回メンタルタフネス育成 ベーシック講座」、3 年生の 9 月に「第2回メンタルタフネス育成 セルフモチベーション講座」、10 月「第3回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)」、12 月「第4回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)」の計 4 回の講座を実施した。各回の講座の概要を以下に示す。

「第1回メンタルタフネス育成 ベーシック講座」

日時:平成 23 年 3 月 23 日(水)9:00-17:00、24 日(木)9:30-12:00

場所:豊橋創造大学 A23 教室

内容:自己のメンタルタフネス

- ・メンタルタフネスの基礎知識
- ・ストレスとは、自己のストレス状況の把握(ストレス度チェック、ストレッサー、)
- ・ストレス対応のための資源、リラックス法等

「第2回メンタルタフネス育成 セルフモチベーション講座」

日時:平成 23 年 9 月 6 日(火) 9:30-16:40

場所:豊橋創造大学 B24 教室

内容:セルフモチベーション

- ・モチベーションに関する基本的な知識
- ・モチベーションの代表的な理論(良く知られている考え方)
- ・自分自身のモチベーション「持論」の研究

「第3回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(1)」

日時:平成 23 年 10 月 25 日(火) 9:30-16:30

場所:豊橋創造大学 A32 教室

内容:仕事理解と企業研究

- ・企業研究の必要性和考え方
- ・ボードゲームを用いた企業研究(アパレル業界)
- ・ケーススタディを用いた仕事理解(タイプ別アドバイス法)

「第4回メンタルタフネス育成 メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)」

日時:平成 23 年 12 月 17 日(土) 9:30-16:15

場所：豊橋創造大学 A32 教室

内容：自己分析と就職活動

- ・就職活動と自己分析の関係を考えてみる
- ・ボードゲームを用いたビジネス研究（携帯電話業界）
- ・ケーススタディを用いた仕事理解（課題解決）

2. 活動成果

メンタルタフネス育成講座では、自己のメンタルタフネス、セルフモチベーションから初めて、仕事理解と企業研究、自己分析と就職活動というような内容で実施したが、各回の講座の学生アンケートの結果をまとめると以下のようになる。アンケートは5段階評価（評価 5. 非常に満足 4. 満足 3. 普通 2. 不満足 1. 非常に不満足）で実施した。

アンケート評価（概略）

	質 問 内 容	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
Q1	講座の満足度は？	3.6	4.0	3.9	3.9
Q2	講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか？	3.9	4.2	4.0	3.9
Q3	講師の話は分かりやすかった	3.7	4.8	4.2	4.3
Q4	パワーポイントは理解しやすかった	3.7	4.5	4.2	4.1
Q5～	各種ワークの平均値	3.5	3.9	3.7	4.0

アンケート評価の概略からは、初回が若干低いもののおおむね 4 前後であり、多くの学生が講座の内容を理解し、メンタルタフネスへの意識付けも出来ていると考えられる。第 2 回目以降のメンタルタフネス講座の評価が第 1 回に比して高いのは、第 1 回実施後アンケート評価を受けて実施内容等の検討を行いワーク等を変更した事による。また、講座全体の満足度に対して、各種のワークの値が低い傾向がみられるので、各回のワーク別のアンケート評価を次に示す。第 1 回の自己ストレスの共有や第 2 回以降の自分史の自己紹介等の自己開示関連のワークとケーススタディの評価が低く、第 1 回おもしろ村のような相互作用関連やボードゲーム関連は評価が高い様子である。出席率については、全日程 5 日間の平均で 84%程度であった。第 2 回のセルフモチベーション講座だけが 65% 特に出席率が低くなってしまったが、これは夏季休業中の開催の周知徹底や調整不足が原因と考えられる。

ワーク別アンケート評価（第 1 回）

	質 問 内 容	評 価
Q5	自分のストレス状況を共有するグループワークはいかがでしたか？	3.4
Q6	「K ゲーム」のグループワークはいかがでしたか？	3.5
Q7	「思考記録票（考え方の柔軟性を養う）」のグループワークはいかがでしたか？	3.4
Q8	「おもしろ村」のグループワークはいかがでしたか？	3.8
Q9	自律訓練法やリラックス体操はいかがでしたか？	3.3

ワーク別アンケート評価（第2回）

Q5	「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか？	3.4
Q6	「モチベーションの有名な考え方」は参考になりましたか？	4.0
Q7	モチベーションの「持論」を通して、自分への理解は以前より深まりましたか？	4.0
Q8	セミナーを通して、以前よりモチベーション（メンタルタフネス）への興味・理解は深まりましたか？	4.2

ワーク別アンケート評価（第3回）

Q5	「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか？	3.0
Q6	ノードストローム社の物語はいかがでしたか？	3.8
Q7	ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか？	4.3
Q8	ケーススタディを通じた仕事理解はいかがでしたか？	3.5

ワーク別アンケート評価（第4回）

Q5	「就職活動」「自己分析」については参考になりましたか？	4.2
Q6	ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか？	4.3
Q7	他の業界について、ボードゲームを使ったビジネス研究をやってみたいと思いますか？	4.1
Q8	ケーススタディを通じたグループワークはいかがでしたか？	3.4

3. 今後の課題点

アンケート評価は各回 4.8～3.3 と分かれており、評価の低いワークについては、内容及び時間配分等について改善する必要がある。また、全体スケジュールの問題点として、キャリアセンターが就職活動に対応するため行っている就職ガイダンスやインターンシップとの日程調整も必要であることが明らかになった。

以上の事から、メンタルタフネス育成講座については、評価の低い講座について改善を行うとともに、スケジュールについては、インターンシップおよび就職ガイダンスと連携する形で、2年3月から3年9月までの間に全4回の講座を実施することとする。就職ガイダンスと連携する事により、メンタルタフネス育成講座から始まり、インターンシップ、就職ガイダンス、就職活動への学生の関心と行動をスムーズにつなげる事が出来ると期待している。次回のメンタルタフネス講座では、講座の意味付けとともに開催スケジュール等の周知について徹底するよう留意したい。

4. その他

特になし

グループ事業名称
メンタルタフネスの育成

担当 千賀博巳 村松史子

1. グループ事業の取組

2年次の始まる前に「メンタルタフネス育成講座」を実施し、秋学期の始まる前に「セルフモチベーション講座」の2つの講座を実施した。

「メンタルタフネス育成講座」

日時：2011年3月23日（水）～24日（木）

23日は9時～17時 24日は9時30分～12時

場所：豊橋創造大学 A24教室

内容：自分のメンタルタフネスを活かせる「場」を見つける

- ・ストレスとは？
- ・なぜ、メンタルタフネスが必要か？
- ・メンタルタフネスを自分のものにするにはどうしたら良いか？

講座内容

項 目	内 容
グループワーク1	学習スタイルのインベントリーを使用した自己紹介
メンタルタフネスベーシック講座1	メンタルタフネスの基本的知識の習得。自分自身のストレス状況の把握
グループワーク2	Kーゲーム
グループワーク3	ストレス度チェック ストレッサーの把握と共有
メンタルタフネスベーシック講座2	ストレス要因の代表例の理解。人間関係のストレス増加とコミュニケーション不全
メンタルタフネスベーシック講座3	ストレスに対応するための4つの資源の理解
グループワーク4	思考的記録票
グループワーク5	おもしろ村
メンタルタフネスベーシック講座4	体の緊張を和らげるリラックス法の実践と習得
グループワーク6	自分自身のリラックス法の共有

「セルフモチベーション講座」

日時：2011年9月6日（水） 9時30分～16時40分

場所：豊橋創造大学 B32教室

内容：・モチベーションとは何か？

- ・モチベーションに関する基本的な知識
- ・モチベーションの代表的な理論（良く知られている考え方）
- ・自分自身のモチベーション「持論」の研究

講座内容

項 目	内 容
グループワーク1	「自分史」を使った自己紹介
セルフモチベーション講座1	モチベーションに関する基本的知識の習得
グループワーク2	モチベーション曲線の記入
セルフモチベーション講座2	モチベーションの「良く知られている考え方」を知る①
グループワーク3	TOYOHASHI 幼稚園の悩み
セルフモチベーション講座3	モチベーションの「良く知られている考え方」を知る②
グループワーク4	「欲求5段階説」の予想
セルフモチベーション講座4	モチベーションの「良く知られている考え方」を知る③
個人ワーク5	私のモチベーション曲線

2. 活動成果

「メンタルタフネス育成講座」の目標

- ・自分の学び方を理解することができる。
- ・ストレスに興味を持ち、自信を持ってこれからの環境変化に対応することができる。
- ・あなた自身が日常生活において気軽に実行できるストレス対応法を身につける。

以上のことを目標にして実施され、5段階評価でアンケート(評価方法は 5. 非常に満足 4. 満足 3. 普通 2. 不満足 1. 非常に不満足)を実施した。

アンケート結果は次の通り

	質 問 内 容	ポイント
1	講座の満足度は？	4. 0
2	講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか？	4. 1

今回が初めての試みで過去の実績はないが、多くの学生が講座の内容を理解し、メンタルタフネスの意識が高まったと思われる。

「セルフモチベーション講座」の目標

- ・自分自身のモチベーションを探究することによって、より自分に適した「環境」や「仕事」が選択できるようにする。
- ・モチベーションに対する「持論」を持つことによって、自分自身のモチベーションを「自己調整」できるようにする。

以上のことを目標にして実施され、5段階評価でアンケート(評価方法は 5. 深まった 4. 少し深まった 3. どちらでもない 2. あまり深まらない 1. 深まらなかった)を実施した。

アンケートの結果は次の通り

	質 問 内 容	ポイント
1	講座を通して、以前よりモチベーション(メンタルタフネス)への興味は深まりましたか？	3. 6

2	講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか？	4.0
3	モチベーションの「良く知られている考え方」は参考になりましたか	4.0
4	モチベーションの「持論」を通して、自分への理解は以前より深まりましたか	3.8
5	前回と同じ質問、「講座全体の満足度は？」	3.7

学生の主なコメント

自分を見直せた。

自分のモチベーションの上げ方が分かった。

やる気はどんな時に起きるかが理解できた。

就職した後も役に立ちそうだと思った。

目標達成の勉強になった。

目標を高く持つということは大変参考になった。

色々なエピソードがあって新たな発見があった。

モチベーションに対する考え方が変わった。

目標を設定すること、自分を理解することの大切さが分かった。

モチベーションの重要性が分かった。

以上の結果から、多くの学生が、モチベーションへの興味・理解、就職活動や日常生活に役立ちそうだと概ね良好な評価をしている。学生のコメントに関しては全体的に好意的なものが多く、メンタルタフネス講座に対する興味や学びへの関心度が伺える内容になった。

3. 今後の課題点

「メンタルタフネス育成講座」はほとんどの学生が参加したが、「セルフモチベーション講座」は、夏休み中の実施と、各セミナー間での認識の相違により参加者が減少した。参加者が前回より減少したことにより、アンケート結果の一人当たりの影響力が上昇し、少数の意見が平均的に影響した可能性が見られた。開催時期に関しては、学生のコメントにおいて「色々学べたけど、夏休みにやってほしくなかった」などの意見がいくつか見られ、メンタルタフネス講座全体の意味づけをする教科が必要と思われる。総合的には「学生満足度の上昇」、「開催時期」、「出席の確保」が次回の課題である。

「学生満足度の上昇」については、毎回4.5ポイント以上になるように、講座の内容を検討する。

「開催時期」については、来年度より、新たな気持ちでいる時の1年次入学時点と、1年次の秋学期当初に実施する。

「出席の確保」については、事前に内容について十分周知徹底し、講座の重要性をキャリアプランニング科の授業の中で、理解を図っていく。

4. その他

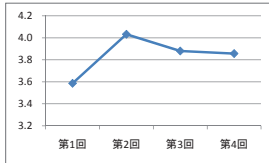
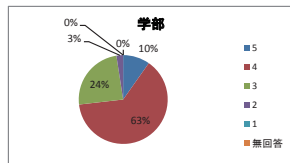
特になし

第1回-第4回メンタルタフネス講座アンケート集計

Q1 セミナー全体の満足度は？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	12	78	30	3	0	0	3.8

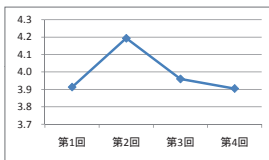
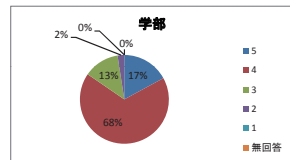
5.非常に満足 4.満足 3.普通 2.不満足 1.非常に不満足



Q2 講座の内容は、今後の就職活動を進めていく上で参考になりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	21	83	16	3	0	0	4.0

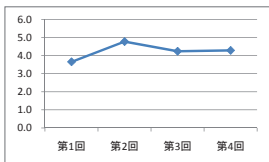
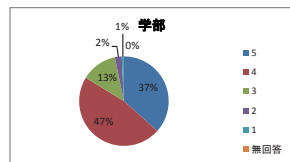
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q3 講師の話は分かりやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	9	4	3	1	0	0	4.2

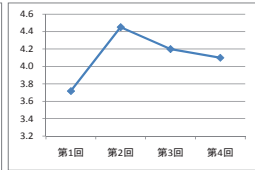
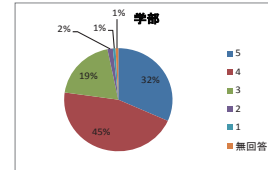
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q4 パワーポイント(スライド)は理解しやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	39	56	24	2	1	1	4.0

5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



各種ワークの評価

第1回

Q5	自分のストレス状況を共有するグループワークはいかがでしたか	3.4
Q6	「Kゲーム」のグループワークはいかがでしたか？	3.5
Q7	「思考記録表(考え方の柔軟性を養う)」のグループワークはいかがでしたか？	3.4
Q8	「おもしろ村」のグループワークはいかがでしたか？	3.8
Q9	自律訓練法やリラクセス体操はいかがでしたか？	3.3
	平均	3.5

第2回

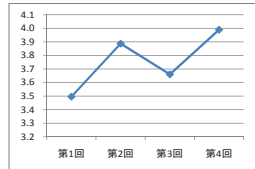
Q5	「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか？	3.4
Q6	「モチベーションの有名な考え方」は参考になりましたか？	4.0
Q7	モチベーションの「持論」を通して、自分への理解は以前より深まりましたか？	4.0
Q8	セミナーを通して、以前よりモチベーション(メンタルタフネス)への理解は深まりましたか？	4.2
	平均	3.9

第3回

Q5	「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか？	3.0
Q6	ノードストリーム社の物語はいかがでしたか？	3.8
Q7	ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか？	4.3
Q8	ケーススタディを通じた仕事理解はいかがでしたか？	3.5
	平均	3.7

第4回

Q5	「就職活動」「自己分析」については参考になりましたか？	4.2
Q6	ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか？	4.3
Q7	他の業界について、ボードゲームを使ったビジネス研究をやって、理解は深まりましたか？	4.1
Q8	ケーススタディを通じたグループワークはいかがでしたか？	3.4
Q9	その他やってみたい業界	4.0
	出版	3.5
	テレビゲーム	3.9
	農業	3.7
	バイク	4.0
	医療	
	サイバーエージェント	



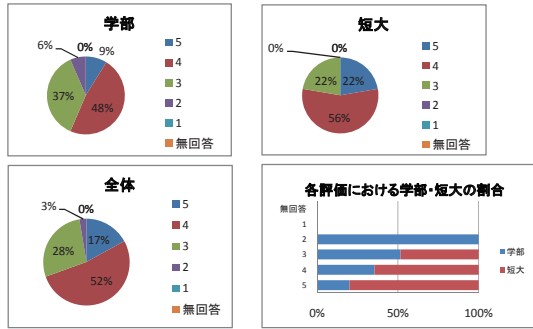
第1回メンタルタフネスベーシック講座アンケート集計

学部	46
短大	72
合計	118

Q1 セミナー全体の満足度は？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	4	22	17	3	0	0	3.6
短大	16	40	16	0	0	0	4.0
全体	20	62	33	3	0	0	3.8

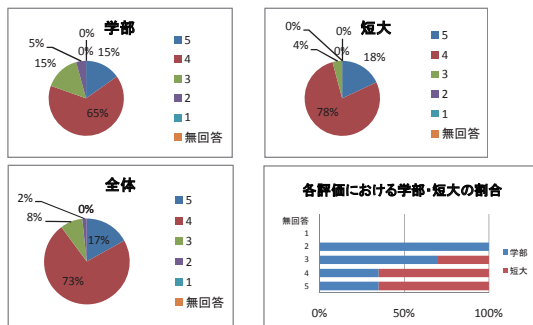
5.非常に満足 4.満足 3.普通 2.不満足 1.非常に不満足



Q2 講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	30	7	2	0	0	3.9
短大	13	56	3	0	0	0	4.1
全体	20	86	10	2	0	0	4.1

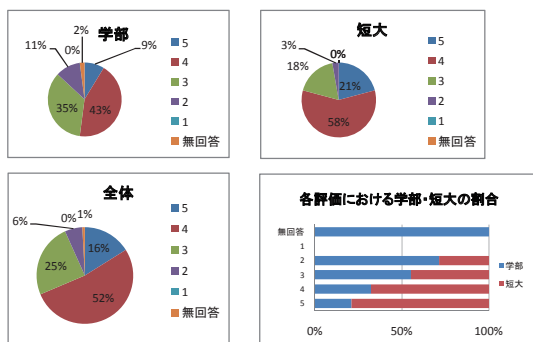
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q5 自分のストレス状況を共有するグループワークはいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	4	20	16	5	0	1	3.4
短大	15	42	13	2	0	0	4.0
全体	19	62	29	7	0	1	3.8

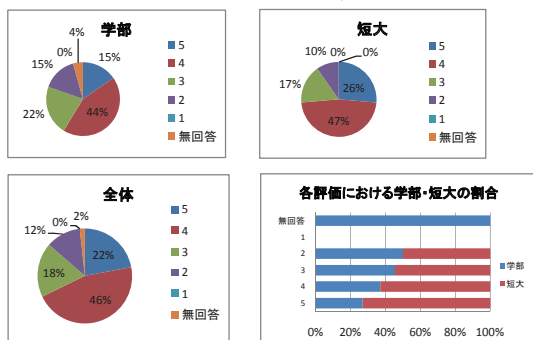
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q6 「Kゲーム」のグループワークはいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	20	10	7	0	2	3.5
短大	19	34	12	7	0	0	3.9
全体	26	54	22	14	0	2	3.7

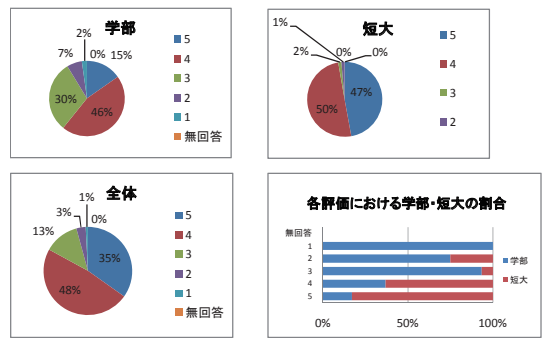
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q3 講師の話は分かりやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	21	14	3	1	0	3.7
短大	34	36	1	1	0	0	4.4
全体	41	57	15	4	1	0	4.1

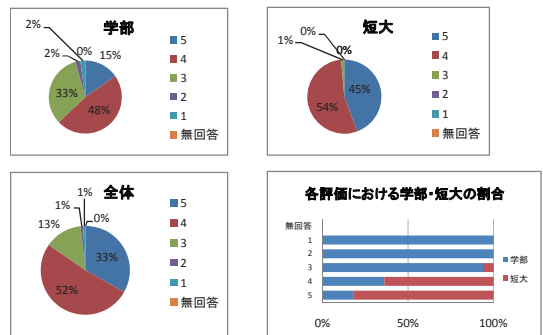
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q4 パワーポイント(スライド)は理解しやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	22	15	1	1	0	3.7
短大	32	39	1	0	0	0	4.4
全体	39	61	16	1	1	0	4.2

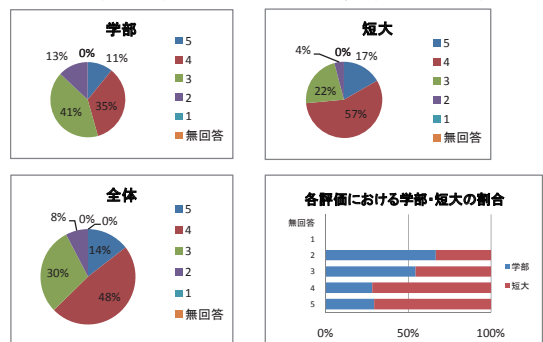
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q7 「思考記録票(考え方の柔軟性を養う)」のグループワークはいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	5	16	19	6	0	0	3.4
短大	12	41	16	3	0	0	3.9
全体	17	57	35	9	0	0	3.7

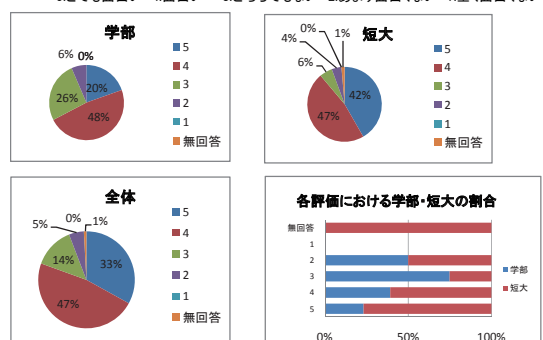
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q8 「おもしろ村」のグループワークはいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	9	22	12	3	0	0	3.8
短大	30	34	4	3	0	1	4.2
全体	39	56	16	6	0	1	4.1

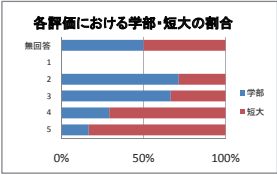
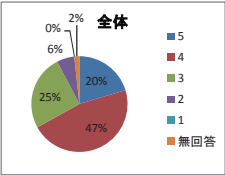
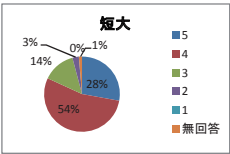
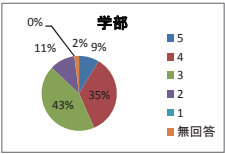
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q9 自律訓練法やリラックス体操はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	4	16	20	5	0	1	3.3
短大	20	39	10	2	0	1	4.0
全体	24	55	30	7	0	2	3.8

5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



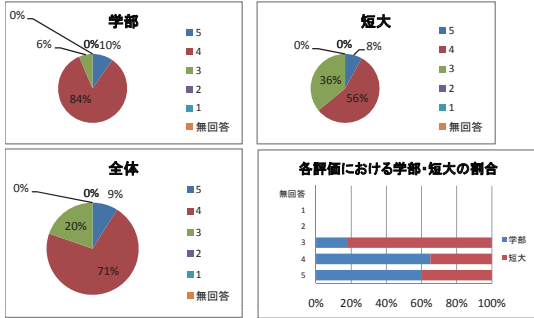
第2回セルフモチベーション講座アンケート集計

学部	31
短大	25
合計	56

Q1. セミナー全体の満足度は？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	3	26	2	0	0	0	4.0
短大	2	14	9	0	0	0	3.7
全体	5	40	11	0	0	0	3.9

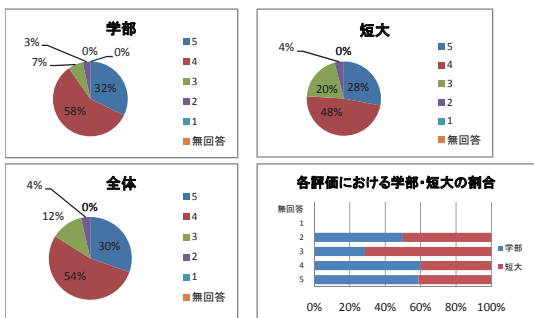
5.とても満足 4.満足 3.どちらでもない 2.不満足 1.非常に不満足



Q2. 講座の内容は、今後の日常生活や就職活動、働いていく上で役立つと思いますか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	10	18	2	1	0	0	4.2
短大	7	12	5	1	0	0	4.0
全体	17	30	7	2	0	0	4.1

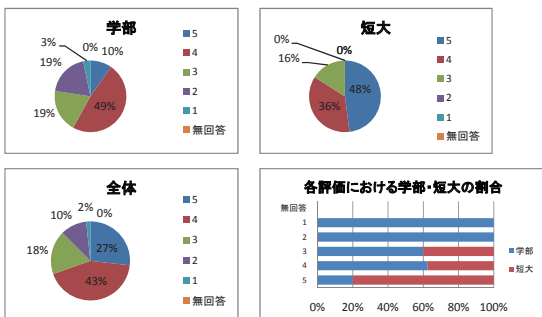
5.そう思う 4.少しだけそう思う 3.どちらでもない 2.あまり思わない 1.そう思わない



Q5. 「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	3	15	6	6	1	0	3.4
短大	12	9	4	0	0	0	4.3
全体	15	24	10	6	1	0	3.8

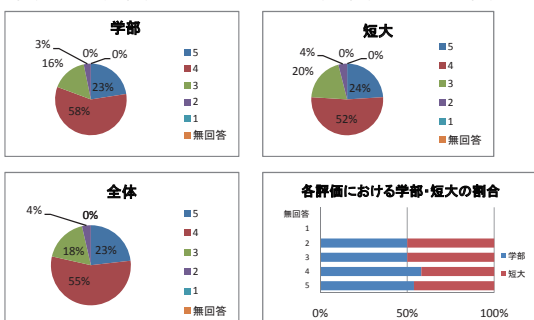
5.面白い 4.少し面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.面白くない



Q6. 「モチベーションの有名な考え方」は参考になりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	18	5	1	0	0	4.0
短大	6	13	5	1	0	0	4.0
全体	13	31	10	2	0	0	4.0

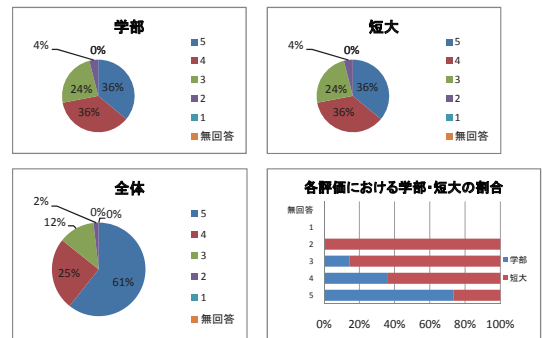
5.参考になった 4.少し参考になった 3.どちらでもない 2.あまり参考にならなかった 1.参考にならなかった



Q3. 講師の話は分かりやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	25	5	1	0	0	0	4.8
短大	9	9	6	1	0	0	4.0
全体	34	14	7	1	0	0	4.4

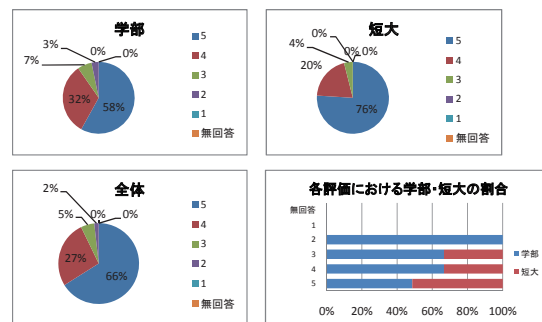
5.そう思う 4.少しだけそう思う 3.どちらでもない 2.あまり思わない 1.そう思わない



Q4. パワーポイント(スライド)は理解しやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	18	10	2	1	0	0	4.5
短大	19	5	1	0	0	0	4.7
全体	37	15	3	1	0	0	4.6

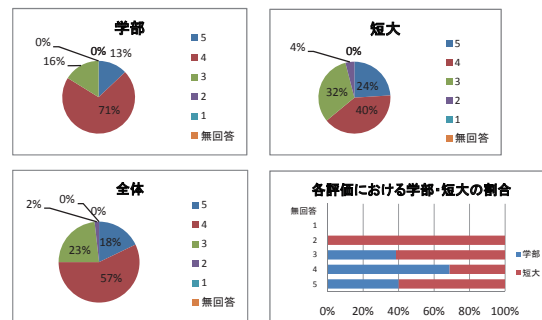
5.そう思う 4.少しだけそう思う 3.どちらでもない 2.あまり思わない 1.そう思わない



Q7. モチベーションの「持論」を通して、自分への理解は以前より深まりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	4	22	0	0	0	0	4.0
短大	6	10	8	1	0	0	3.8
全体	10	32	8	1	0	0	3.9

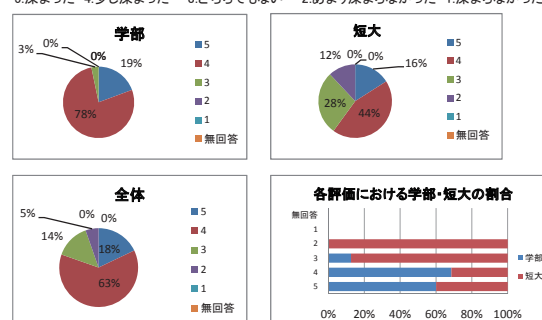
5.深まった 4.少し深まった 3.どちらでもない 2.あまり深まらなかった 1.深まらなかった



Q8. セミナーを通して、以前よりモチベーション(メンタルタフネス)への興味・理解は深まりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	6	24	1	0	0	0	4.2
短大	4	11	7	3	0	0	3.6
全体	10	35	8	3	0	0	3.9

5.深まった 4.少し深まった 3.どちらでもない 2.あまり深まらなかった 1.深まらなかった

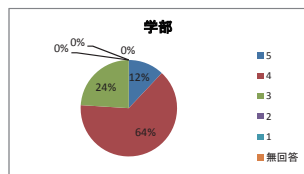


第3回メンタルファネスを活かすビジネス研究講座(1)アンケート集計

Q1. セミナー全体の満足度は？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	3	16	6	0	0	0	3.9
合計	25						25

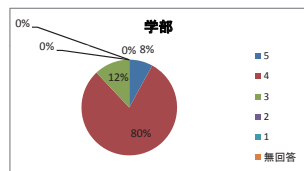
5.非常に満足 4.満足 3.普通 2.不満足 1.非常に不満足



Q2. 講座の内容は、今後の就職活動を進めていく上で参考になりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	2	20	3	0	0	0	4.0

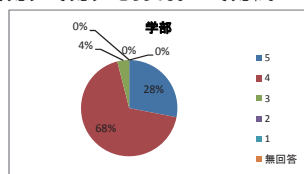
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q3. 講師の話は分かりやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	7	17	1	0	0	0	4.2

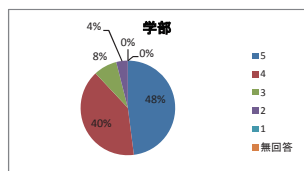
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q7. ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	12	10	2	1	0	0	4.3

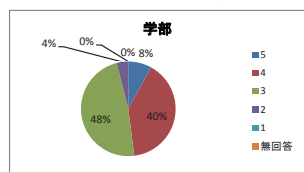
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q8. ケーススタディを通じた仕事理解はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	2	10	12	1	0	0	3.5

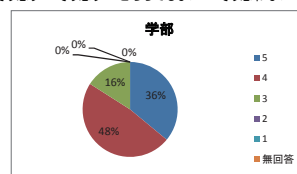
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q4. パワーポイント(スライド)は理解しやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	9	12	4	0	0	0	4.2

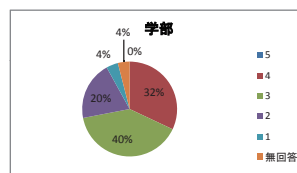
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q5. 「自分史」や「モチベーション曲線」による自己紹介はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	0	8	10	5	1	1	3.0

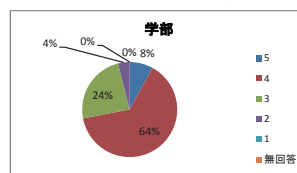
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q6. ノードストローム社の物語はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	2	16	6	1	0	0	3.8

5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない

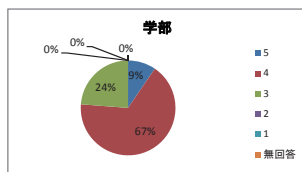


第4回メンタルタフネスを活かすビジネス研究講座(2)アンケート集計

Q1 セミナー全体の満足度は？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	2	14	5	0	0	0	3.9

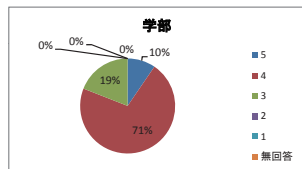
5.非常に満足 4.満足 3.普通 2.不満足 1.非常に不満足



Q2 講座の内容は、今後の就職活動を進めていく上で参考になりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	2	15	4	0	0	0	3.9

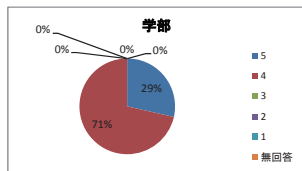
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q3 講師の話は分かりやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	6	15	0	0	0	0	4.3

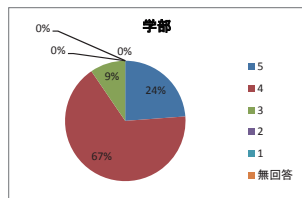
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q7 他の業界について、ボードゲームを使ったビジネス研究をやってみたいと思いますか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	5	14	2	0	0	0	4.1

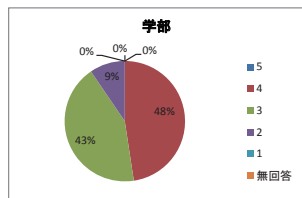
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q8 ケーススタディを通したグループワークはいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	0	10	9	2	0	0	3.4

5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



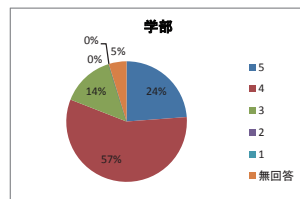
Q9. その他やってみたい業界

- 1 出版
- 1 テレビゲーム
- 1 農業
- 1 バイク
- 1 医療
- 1 サイバーエージェント

Q4 パワーポイント(スライド)は理解しやすかったですか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	5	12	3	0	0	1	4.1

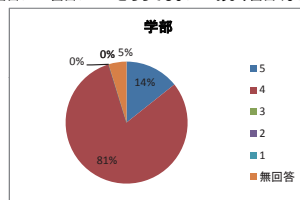
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらでもない 2.そう思わない 1.全くそう思わない



Q5 「就職活動」「自己分析」については参考になりましたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	3	17	0	0	0	1	4.2

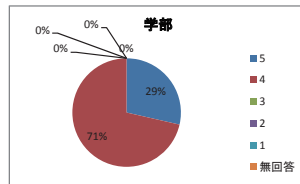
5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



Q6 ボードゲームを使ったビジネス研究はいかがでしたか？

	5	4	3	2	1	無回答	平均
学部	6	15	0	0	0	0	4.3

5.とても面白い 4.面白い 3.どちらでもない 2.あまり面白くない 1.全く面白くない



プロジェクト実践（情報ビジネス学部）

担当 三好哲也

1. グループ事業の取組

（1）プロジェクト実践の目的

プロジェクト実践においては、学生の就業力育成のための一つの活動として、企業との協働プロジェクトを実施する。プロジェクトに参加し、活動を行うことにより、グループ内でのコミュニケーション能力を高め、役割分担などを行いながら主体的に行動できる能力を育成する。また、プロジェクト活動の中で、協力企業の方々との打ち合わせや意見交換を実際に体験することにより、意見形成力、意見傾聴力、コミュニケーション力など社会人として必要とされる能力（社会人基礎力）についての認識を深めさせるとともにその養成を行う。

（2）プロジェクト実践の内容

「実践的スキルのブラッシュアップ」では、学生自身が企画・立案・運営するプロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気づき・学ぶ「創造プロジェクト」を推進した。学生が企画するプロジェクトでは、学外の企業、団体と何らかの連携・協働するテーマを検討・実施した。この活動を進めるために、2011 年から「プロジェクトマネジメント（講義）」「プロジェクト演習」の科目を開講した。プロジェクト演習では、受講学生（3 年生）を 13 のプロジェクトグループに分割してプロジェクト活動を進めた。その活動の中で、グループ内での意識統一や他グループの進め方などを共有するために中間発表会、期末報告会の計画を立て実施した。また、プロジェクト活動のテーマ探求において必要と思われる地域での課題を理解するため、2011 年度当初に予定する豊橋市役所政策企画課ならびに産業企画課担当者による講演会とグループワークによる市政提案に向け意見形成のための準備を行った。

（3）実施スケジュール

2011 年 2 月	プロジェクト活動についての学生ガイダンス
2011 年 4 月	キックオフミーティング 1 「豊橋の行政について」 豊橋市 企画部政策企画課 主査 増田 明氏 キックオフミーティング 2 「豊橋の産業について」 豊橋市 産業部産業政策課 主査 田村明浩氏
2011 年 5 月	プロジェクトテーマ提出
2011 年 8 月	プロジェクト中間発表会
2011 年 12 月	プロジェクト成果発表会
2012 年 1 月	教員によるプロジェクト成果報告書の取りまとめ
2012 年 2 月	教員による成果報告書に基づく反省会の実施

（4）実施したプロジェクト一覧

情報ビジネス学部では、平成 23 年度には、13 のテーマに分かれてプロジェクト活動に取り組んだ。取り組んだテーマは、企業活動における物流、マーケティング、商品開発、会計処理、情報処理、経営意思決定に関する調査や提案活動、地域・学内活動の支援などを幅広いもので

あった。以下にそのテーマを示す。

1. 外食産業におけるロジスティクス・システムの研究（石田プロジェクト）
2. 福祉施設で紙芝居（今井久プロジェクト）
3. ビジネス系学生のための情報処理資格に向けた電子コンテンツの改善活動（今井正プロジェクト）
4. 豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの稼働状況調査（見目プロジェクト）
5. 認定試験に受かるための学習環境構築と運営（五味プロジェクト）
6. 会計事務所の業務内容と組織の仕組みを知る（中野一プロジェクト）
7. 社会的企業の実証研究（中野聡プロジェクト）
8. 豊橋筆プロジェクト（花岡プロジェクト）
9. 豊橋自慢企業のトップインタビュープロジェクト（三好プロジェクト）
10. 学食広報プロジェクト by 学食おうえん団（三輪プロジェクト）
11. 東三河における繊維産業（森田プロジェクト）
12. 炎の祭典支援プロジェクト（山口プロジェクト）
13. 東三河 Bible（吉川・片岡プロジェクト）

2. 活動成果

一般に多くの人に関わるプロジェクトでは、メンバー相互の意思疎通が不可欠であり、実践的なコミュニケーション能力が求められる。本プロジェクトにおいても、コミュニケーションの実践的トレーニングがプロジェクト活動の中で繰り返し行われた。また、プロジェクトの目的達成のために、作業計画とその実行を意識して、活動に取り組む必要がある。学生は実際にプロジェクトに参加して、プロジェクト（事業）の推進のための基礎的方法を体得したと評価している。表1にプロジェクト終了後の学生自己評価アンケート結果を示す。プロジェクト推進方法についての設問では、80%以上の学生が肯定意見であり、プロジェクト進め方について積極的に考慮していたことが伺える。また、コミュニケーションスキルに関する設問では、プレゼンテーションが十分であるとの肯定評価が50%程度であり、先の項目群より相対的に小さく、課題項目として認識されている。以上のように、プロジェクト活動は、参加学生にとって協働作業における進め方の概略理解とそのために必要な能力について自己考察できる機会であったと評価できる。大学における講義では教員や友人と協働する機会が少ない中、本プロジェクトはそのような機会を提供でき、学生が組織の中で活動するための社会人基礎力の養成に貢献したと評価できる。

3. 今後の課題点

地域企業の協力を得て進める本プロジェクトは、学生にとって社会人としての擬似的体験ができるという意味で、大きな意味がある。一方で、専門知識の不足する学生の指導にご協力いただく企業の皆様には大きな御負担になっていることも否めない。そのような状況の中で、適切にテーマ設定することの困難性も指導教員の共通した考察であった。学生教育の場面として、継続できる方策について引き続き検討する必要がある。

4. その他

ここでは、プロジェクトにおける進捗管理システムの開発について述べる。プロジェクトにおいて、重要なことは設定された目的達成のために、行うべき事項を明確化し、その遂行を計画的に行う環境を形成することである。そのためには、グループ間で情報を共有し、作業内容

持続型職業人 SOZO プロジェクト プロジェクト成果報告書（グループ事業）

やその進捗状況の確認が不可欠である。参加学生がプロジェクトの進め方を理解し行動できるように、プロジェクト活動では「問題設定」－「行動計画」－「実施」－「評価」の実践を指導した。プロジェクト活動を iPad から記録することで、学生がその行動様式を意識できるプロジェクト管理システムを独自開発した。このシステムをプロジェクト活動で繰り返し利用することにより、プロジェクトの進め方を体得させた。利用画面を図 1 に示す。



図 1 iPad におけるプロジェクト管理画面

表 1 プロジェクト活動に対する学生の自己評価アンケート結果

	そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
Q1:プロジェクトで行う作業を明確に決めて、プロジェクトを進めることができましたか？	0.47	0.39	0.12	0.02
Q2:プロジェクトを進める上で、スケジュールを作成して取り組みましたか？	0.33	0.51	0.12	0.04
Q3:プロジェクトメンバー間で役割を決めて、プロジェクトに取り組みましたか？	0.45	0.43	0.06	0.06
Q4:他のメンバーとの情報交換を円滑に進めて、プロジェクトに取り組みましたか？	0.24	0.51	0.18	0.06
Q5:自らの意見を主張することができましたか？	0.31	0.29	0.29	0.12
Q6:自らの意見を口頭でわかりやすく伝えることができましたか？	0.06	0.43	0.43	0.08
Q7:プロジェクトの問題を認識し、必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決することができましたか？	0.16	0.59	0.16	0.08
Q8:既存の枠にとらわれず、新しいアイデアを出すことができましたか？	0.12	0.24	0.47	0.16
Q9:相手(他のメンバー、連携企業・団体の方)の意見を丁寧に聞き、話を引き出すことができましたか？	0.18	0.45	0.31	0.06
Q10:ビジョンを描き、目標を設定することができましたか？	0.20	0.41	0.35	0.04

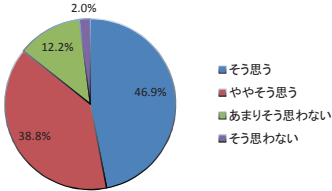
プロジェクト演習学生アンケート集計結果

実施日(回収日):平成23年12月22日
アンケート対象 :情報ビジネス学部3年生 51名
回答数:48
回答率:96.1%

Q1:プロジェクトで行う作業を明確に決めて、プロジェクトを進めることができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	1	3			4
今井(久)	4	4	2	2			4
今井(正)	2	2	2				2
見目	3	3	1	2			3
五味	2	2	2				2
中野(一)	4	4	1	2	1		4
中野(聡)	5	5	2		2	1	5
花園	5	5	4		1		5
三好	3	3	2	1			3
三輪	8	8	4	2	2		8
森田	4	4	4				4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4	2	2			4
合計	51	49	23	19	6	1	49
割合		96.1%	46.9%	38.8%	12.2%	2.0%	100.0%

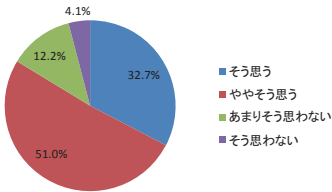
Q1:プロジェクトで行う作業を明確に決めて、プロジェクトを進めることができましたか？



Q2:プロジェクトを進める上で、スケジュールを作成して取り組みましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	1	3			4
今井(久)	4	4	2	1	1		4
今井(正)	2	2		1	1		2
見目	3	3		3			3
五味	2	2		2			2
中野(一)	4	4	2	2			4
中野(聡)	5	5	2	1	1	1	5
花園	5	5	2	2	1		5
三好	3	3	2	1			3
三輪	8	8	2	5		1	8
森田	4	4		3	1		4
山口	2	1			1		1
吉川・片岡	5	4	1	3			4
合計	51	49	16	25	6	2	49
割合		96.1%	32.7%	51.0%	12.2%	4.1%	100.0%

Q2:プロジェクトを進める上で、スケジュールを作成して取り組みましたか？



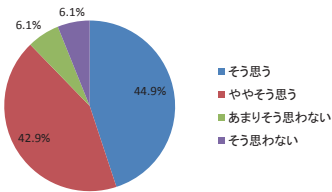
1 ページ

プロジェクト演習学生アンケート集計結果

Q3:プロジェクトメンバー間で役割を決めて、プロジェクトに取り組みましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	4				4
今井(久)	4	4	2	2			4
今井(正)	2	2	2				2
見目	3	3		2	1		3
五味	2	2		2			2
中野(一)	4	4		3		1	4
中野(聡)	5	5	2	2		1	5
花園	5	5	3	2			5
三好	3	3	3				3
三輪	8	8	4	3	1		8
森田	4	4		2	1	1	4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4	2	2			4
合計	51	49	22	21	3	3	49
割合		96.1%	44.9%	42.9%	6.1%	6.1%	100.0%

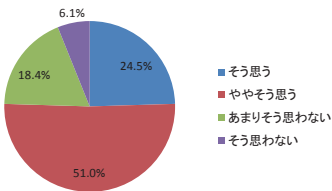
Q3:プロジェクトメンバー間で役割を決めて、プロジェクトに取り組みましたか？



Q4:他のメンバーとの情報交換を円滑に進めて、プロジェクトに取り組みましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	4				4
今井(久)	4	4		2	2		4
今井(正)	2	2		2			2
見目	3	3		2	1		3
五味	2	2	1	1			2
中野(一)	4	4		4			4
中野(聡)	5	5	1	3		1	5
花園	5	5	2	1	2		5
三好	3	3	3				3
三輪	8	8	1	4	1	2	8
森田	4	4		2	2		4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4		3	1		4
合計	51	49	12	25	9	3	49
割合		96.1%	24.5%	51.0%	18.4%	6.1%	100.0%

Q4:他のメンバーとの情報交換を円滑に進めて、プロジェクトに取り組みましたか？

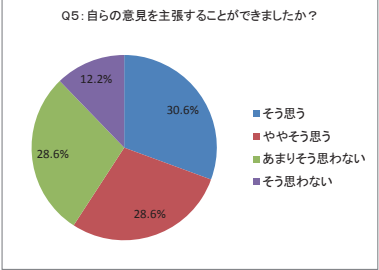


2 ページ

プロジェクト演習学生アンケート集計結果

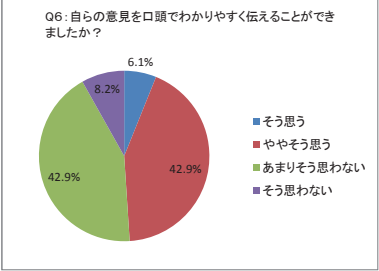
Q5: 自らの意見を主張することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	2	2			4
今井(久)	4	4	1	1	1	1	4
今井(正)	2	2		1		1	2
見目	3	3	1	2			3
五味	2	2	1		1		2
中野(一)	4	4	1	3			4
中野(聡)	5	5	1		3	1	5
花園	5	5	2	2	1		5
三好	3	3	2		1		3
三輪	8	8	1	3	3	1	8
森田	4	4			3	1	4
山口	2	1	1				1
吉川・片岡	5	4	2		1	1	4
合計	51	49	15	14	14	6	49
割合		96.1%	30.6%	28.6%	28.6%	12.2%	100.0%



Q6: 自らの意見を口頭でわかりやすく伝えることができましたか？

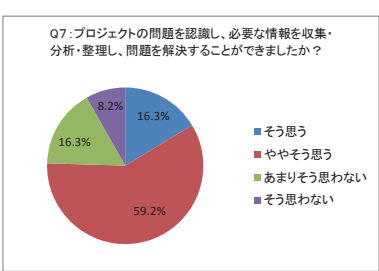
プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4		3	1		4
今井(久)	4	4	1		2	1	4
今井(正)	2	2			2		2
見目	3	3	1	2			3
五味	2	2		1	1		2
中野(一)	4	4		4			4
中野(聡)	5	5		2	2	1	5
花園	5	5	1	2	2		5
三好	3	3		1	2		3
三輪	8	8		2	4	2	8
森田	4	4		2	2		4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4		2	2		4
合計	51	49	3	21	21	4	49
割合		96.1%	6.1%	42.9%	42.9%	8.2%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

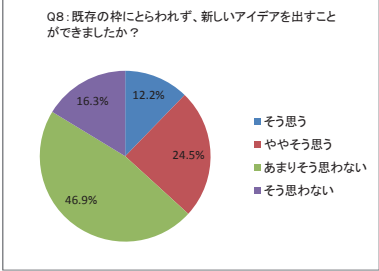
Q7: プロジェクトの問題を認識し、必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	1	2	1		4
今井(久)	4	4	2	1		1	4
今井(正)	2	2		2			2
見目	3	3		3			3
五味	2	2		2			2
中野(一)	4	4		3	1		4
中野(聡)	5	5	1	3		1	5
花園	5	5	2	2		1	5
三好	3	3	2	1			3
三輪	8	8		3	4	1	8
森田	4	4		4			4
山口	2	1			1		1
吉川・片岡	5	4		3	1		4
合計	51	49	8	29	8	4	49
割合		96.1%	16.3%	59.2%	16.3%	8.2%	100.0%



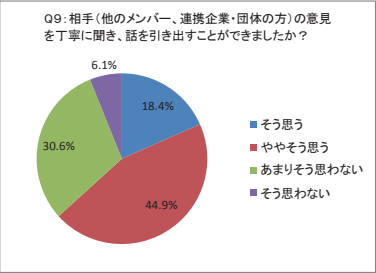
Q8: 既存の枠にとらわれず、新しいアイデアを出すことができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4	1	1	2		4
今井(久)	4	4	2		2		4
今井(正)	2	2				2	2
見目	3	3	1	1	1		3
五味	2	2		1	1		2
中野(一)	4	4		2	1	1	4
中野(聡)	5	5		1	3	1	5
花園	5	5	2	1	1	1	5
三好	3	3		1	2		3
三輪	8	8		2	4	2	8
森田	4	4		2	1	1	4
山口	2	1			1		1
吉川・片岡	5	4			4		4
合計	51	49	6	12	23	8	49
割合		96.1%	12.2%	24.5%	46.9%	16.3%	100.0%

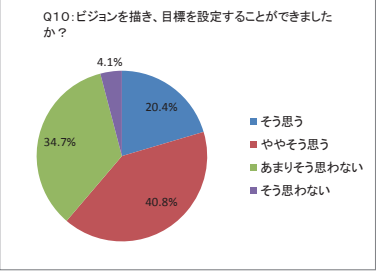


プロジェクト演習学生アンケート集計結果

Q9: 相手(他のメンバー、連携企業・団体の方)の意見を丁寧に聞き、話を引き出すことができましたか？							
プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4		2	2		4
今井(久)	4	4	1	3			4
今井(正)	2	2		2			2
見目	3	3	1	1	1		3
五味	2	2		1	1		2
中野(一)	4	4	1	3			4
中野(聡)	5	5		1	2	2	5
花園	5	5	2	1	2		5
三好	3	3	2	1			3
三輪	8	8	2	4	2		8
森田	4	4		1	2	1	4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4		1	3		4
合計	51	49	9	22	15	3	49
割合		96.1%	18.4%	44.9%	30.6%	6.1%	100.0%



Q10: ビジョンを描き、目標を設定することができましたか？							
プロジェクト名	在籍人数	回答数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
石田	4	4		3	1		4
今井(久)	4	4	1	1	2		4
今井(正)	2	2		1	1		2
見目	3	3	2		1		3
五味	2	2	1		1		2
中野(一)	4	4	1	2	1		4
中野(聡)	5	5		2	2	1	5
花園	5	5	3	1	1		5
三好	3	3	1	2			3
三輪	8	8	1	5	1	1	8
森田	4	4			4		4
山口	2	1		1			1
吉川・片岡	5	4		2	2		4
合計	51	49	10	20	17	2	49
割合		96.1%	20.4%	40.8%	34.7%	4.1%	100.0%



グループ事業名称 「プロジェクト実践」

担当 今泉 仁志

1. グループ事業の取組

学生の就業力育成事業の1つとして、プロジェクト活動に取り組んだ。必修の「特別研究セミナー」のコマを使い、教員の指導のもとに学生自らが企画・立案・運営するプロジェクトを経験する場とした。プロジェクト活動では携帯情報端末を活用し、ITリテラシーを体得させることを積極的に進めた。プロジェクトの運営を通して学生が人間的に成熟することを期待し、ある程度の成果をあげることができた。

2. プロジェクトの成果

プロジェクトは、以下のような全体スケジュールで進行した。

- | | |
|------------------|------------------------------|
| 2011 年 04 月中 | プロジェクトの企画 |
| 2011 年 04 月 12 日 | キックオフ講演会1/2 「豊橋を知る ー行政についてー」 |
| 2011 年 04 月 19 日 | キックオフ講演会2/2 「豊橋を知る ー産業についてー」 |
| 2011 年 04 月 26 日 | テーマ決定、プロジェクト実行計画書の提出 |
| 2011 年 07 月 31 日 | 進捗状況の確認、プロジェクト中間報告書の提出 |
| 2011 年 12 月中 | 学生に対するアンケートの実施 |
| 2011 年 12 月 21 日 | プロジェクト発表会 |
| 2011 年 12 月 21 日 | プロジェクト成果報告書(学生)の提出 |
| 2012 年 01 月 20 日 | プロジェクト成果報告書(教員)の提出 |
| 2012 年 02 月 15 日 | プロジェクト活動の反省会 |

学生が書いた報告書やアンケート結果をみると、人間的な成長という点から見るべきものがあつた。

- ・プロジェクト活動を通して、自分の行動に対する自覚が高まった。
- ・協力する大切さがわかった。グループメンバーの気持ちがひとつになる経験をした。
- ・企業人と交渉することで、社会人としてのコミュニケーション能力が高まった。
- ・仕事というものの大変さがよくわかった。
- ・授業に対してより高いものを求めるようになった。

教員の立場から見ても、以下のような感想があつた。

- ・学生達が自発的に動いてくれるようになった。
- ・成果があがったという実感がある。
- ・新聞で取り上げられたプロジェクトもあり、広報活動の面からもよかった。
- ・プロジェクト活動を通じて、一人ひとりの学生をよりよく理解できた。
- ・プロジェクト活動は、スキルアップにも役立った。
- ・ゼミ活動の一環ということで、スムーズにできた。
- ・パワーポイントを使い、グループで成果を発表する機会を持てたことはよかった。

持続型職業人 SOZO プロジェクト
プロジェクト成果報告書（グループ事業）

- ・自信を持って成果を発表する様子を見ていて、成長している様子が伺えた。

3. 今後の課題点

今回のプロジェクト運営を総括するために、教員で反省会を開催した。

- ・テーマ選定はなかなか困難

プロジェクトのテーマ選定は、ほとんど教員がやっているのが実情である。必修のゼミのコマで対応しているが、学生によってモチベーションに大きなばらつきがある。学生が自分の課題であるという意識を持って取り組むまでに時間がかかる。

- ・ゼミの時間だけでは自ずと活動範囲に限界がある。

選んだテーマにもよるが、土曜日・日曜日を利用して活動する必要がある、通常の授業のコマを振り替える必要がでてくる。

- ・外部組織との関わりはなかなか困難

上記と密接に関連するが、とにかく時間がかかるものである。教員がやってしまえば簡単なことなのだが、わざわざ学生にやらせようとすれば匙加減がなかなか難しい。

- ・お互いのプロジェクト活動の「見える化」が不足

プロジェクト活動状況を教員同士が共有し、運営上のノウハウが水平展開できればよかった。

4. その他

- ・iPad の活用については、ハンディな携帯情報端末として、今まで以上に活用したい。

■以上。

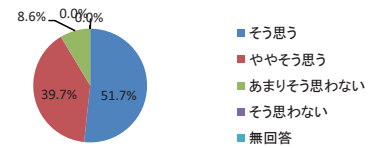
プロジェクト演習学生アンケート集計結果

実施日(回収日):平成23年12月16日
アンケート対象 :キャリアプランニング科2年生 43名
延べ回答数:58

Q1:プロジェクトで行う作業を明確に決めて、プロジェクトを進めることができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	6	2				8
朝倉(焼菓子)	8	3	3	2			8
今泉	4		2	2			4
木下	8	6	2				8
千賀・中島	10	1	8	1			10
寺本	2	2					2
細谷	4	3	1				4
村松	14	9	5				14
合計	58	30	23	5	0	0	58
割合		51.7%	39.7%	8.6%	0.0%	0.0%	100.0%

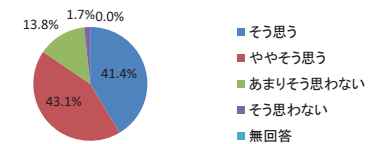
Q1:プロジェクトで行う作業を明確に決めて、プロジェクトを進めることができましたか？



Q2:プロジェクトを進める上で、スケジュールを作成して取り組みましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	5	2	1			8
朝倉(焼菓子)	8	3	2	2	1		8
今泉	4		2	2			4
木下	8	5	2	1			8
千賀・中島	10	1	9				10
寺本	2	2					2
細谷	4		2	2			4
村松	14	8	6				14
合計	58	24	25	8	1	0	58
割合		41.4%	43.1%	13.8%	1.7%	0.0%	100.0%

Q2:プロジェクトを進める上で、スケジュールを作成して取り組みましたか？

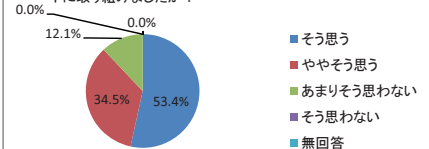


プロジェクト演習学生アンケート集計結果

Q3:プロジェクトメンバー間で役割を決めて、プロジェクトに取り組みましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	4	4				8
朝倉(焼菓子)	8	4	2	2			8
今泉	4		1	3			4
木下	8	6	2				8
千賀・中島	10	2	6	2			10
寺本	2	2					2
細谷	4	3	1				4
村松	14	10	4				14
合計	58	31	20	7	0	0	58
割合		53.4%	34.5%	12.1%	0.0%	0.0%	100.0%

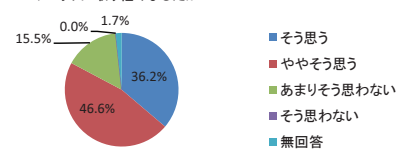
Q3:プロジェクトメンバー間で役割を決めて、プロジェクトに取り組みましたか？



Q4:他のメンバーとの情報交換を円滑に進めて、プロジェクトに取り組みましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	3	4	1			8
朝倉(焼菓子)	8	3	3	2			8
今泉	4		2	2			4
木下	8	3	4	1			8
千賀・中島	10	1	7	1		1	10
寺本	2	2					2
細谷	4	2	1	1			4
村松	14	7	6	1			14
合計	58	21	27	9	0	1	58
割合		36.2%	46.6%	15.5%	0.0%	1.7%	100.0%

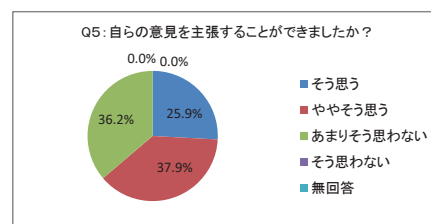
Q4:他のメンバーとの情報交換を円滑に進めて、プロジェクトに取り組みましたか？



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

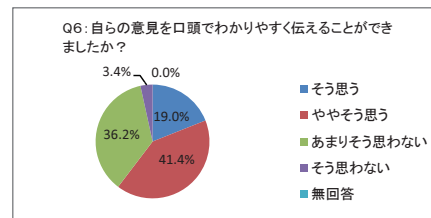
Q5: 自らの意見を主張することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	1	2	5			8
朝倉(焼菓子)	8	2		6			8
今泉	4		1	3			4
木下	8	2	5	1			8
千賀・中島	10	2	5	3			10
寺本	2	2					2
細谷	4		2	2			4
村松	14	6	7	1			14
合計	58	15	22	21	0	0	58
割合		25.9%	37.9%	36.2%	0.0%	0.0%	100.0%



Q6: 自らの意見を口頭でわかりやすく伝えることができましたか？

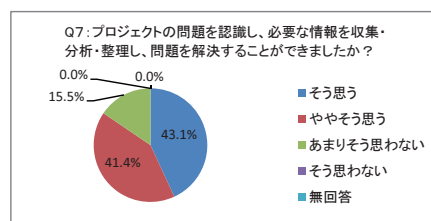
プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	2	3	3			8
朝倉(焼菓子)	8		1	6	1		8
今泉	4			4			4
木下	8	1	5	1	1		8
千賀・中島	10		7	3			10
寺本	2	2					2
細谷	4		3	1			4
村松	14	6	5	3			14
合計	58	11	24	21	2	0	58
割合		19.0%	41.4%	36.2%	3.4%	0.0%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

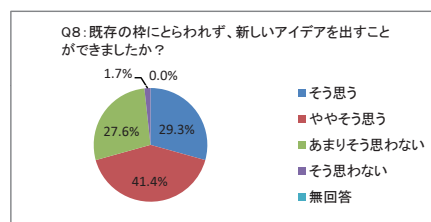
Q7: プロジェクトの問題を認識し、必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	3	3	2			8
朝倉(焼菓子)	8	2	5	1			8
今泉	4		2	2			4
木下	8	5	2	1			8
千賀・中島	10	2	7	1			10
寺本	2	2					2
細谷	4	3		1			4
村松	14	8	5	1			14
合計	58	25	24	9	0	0	58
割合		43.1%	41.4%	15.5%	0.0%	0.0%	100.0%



Q8: 既存の枠にとらわれず、新しいアイデアを出すことができましたか？

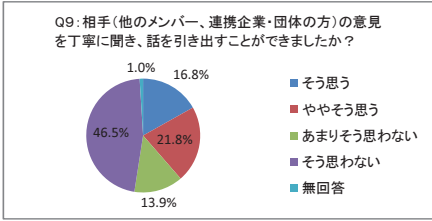
プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	2	3	3			8
朝倉(焼菓子)	8	1	5	2			8
今泉	4		1	2	1		4
木下	8	3	3	2			8
千賀・中島	10	1	7	2			10
寺本	2	2					2
細谷	4		1	3			4
村松	14	8	4	2			14
合計	58	17	24	16	1	0	58
割合		29.3%	41.4%	27.6%	1.7%	0.0%	100.0%



プロジェクト演習学生アンケート集計結果

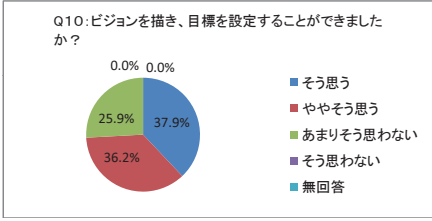
Q9:相手(他のメンバー、連携企業・団体の方)の意見を丁寧に聞き、話を引き出すことができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	1	3	4			8
朝倉(焼菓子)	8	1	1	6			8
今泉	4		1	1	2		4
木下	8	3	4	1			8
千賀・中島	10	2	7			1	10
長谷川	45				45		45
細谷	4	1	2	1			4
村松	14	9	4	1			14
合計	101	17	22	14	47	1	101
割合		16.8%	21.8%	13.9%	46.5%	1.0%	100.0%



Q10:ビジョンを描き、目標を設定することができましたか？

プロジェクト名	在籍人数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
朝倉(コックさん)	8	3	3	2			8
朝倉(焼菓子)	8	1	2	5			8
今泉	4			4			4
木下	8	3	3	2			8
千賀・中島	10	4	6				10
寺本	2	2					2
細谷	4		3	1			4
村松	14	9	4	1			14
合計	58	22	21	15	0	0	58
割合		37.9%	36.2%	25.9%	0.0%	0.0%	100.0%



ユビキタス・キャンパスの始動

担当 山口 満

1. グループ事業の取組

本グループ事業『ユビキタス・キャンパスの始動』では、大学と学生をインタラクティブに結ぶユビキタス・キャンパスの実現を目指して、携帯情報端末の配布、学内の IT 環境の整備、アプリケーション開発支援、および、『持続型職業人 SOZO プロジェクト』に特化した Web サイト・データベースの構築を目的として活動を行った。

平成 23 年度は、具体的に以下の計画に基づき活動を実施した。

- ① 情報ビジネス学部キャリアデザイン学科 3 年生に携帯情報端末（iPad）を配布し、Web 情報検索等で利用させることを通じて、IT リテラシーを習得・向上させる
- ② 携帯情報端末の利用を促進させるため、学内において、いつでも・どこでも学生がインターネット等を利用できる環境を整える
- ③ 就業力育成に寄与する電子コンテンツ・アプリケーションや情報提供の仕組み（Web サイトなど）を開発・構築・運用する
- ④ 携帯情報端末用プロジェクト管理アプリケーションの開発・配布について技術的支援を行い、『実践的スキルのブラッシュアップ』におけるプロジェクト活動で活用させることを補助する。

2. 活動成果

平成 23 年度の実施結果を以下に示す。

- ① 事前に iPad に各種設定を施したのち、平成 23 年 3 月末に学生に対して iPad を配布し、あわせて基本的な利用方法に関する説明会を実施した。
- ② iPad をより利用しやすくするため、学内ネットワークシステムにおける学生の利用状況などの調査を通じて、無線 LAN 環境の充実化方策を検討した。なお、検討結果については、平成 24 年度向けの学内ネットワーク環境整備（新・無線 LAN 環境の構築）に活かし、平成 23 年度末に具体的に充実化策を実施する予定である。
- ③ 本事業に関する学生向けポータルサイトを開設し、①で使用した説明資料をはじめとする各種マニュアル掲示等の情報発信活動を行った。また、就業力育成につながる大学独自の iPad アプリ開発について検討を行った（これについては、平成 23 年度内の完成を目指し、継続して検討中である）。さらに、平成 22 年度に導入した e-learning システム（Handbook）の利用環境整備を行うとともに、同システムで利用できる学習コンテンツの選定・導入を行った。
- ④ プロジェクト管理アプリケーションについて、ポータルサイトを通じた学内向け配布環境を整備した。また、アプリの不具合報告や改善要望等を集約し、開発業者とともに逐次不具合修正・新規機能追加などの活動に取り組んだ。

平成 23 年度の活動については、次の方法を通じて効果を測定し評価することとした（なお、③の一部および④については調査出来ていないため、調査方法も含め今後検討していく必要がある）。

（１）iPad 貸与学生に対するアンケートの実施

iPad 貸与前後で自身に生じた変化をアンケートにより振り返らせ、iPad 配布による効果を検証する（各自の主観的評価）。実際の利用状況や利用上で生じた問題など、個々の意見を収集して整理し、運営方法に関する改善点を明らかにする。

（２）学内ネットワークシステム等の利用実績（記録）の整理と集計

学内ネットワークシステムにおけるユーザの iPad 利用ログを収集・整理して実際の利用状況（利用者数、利用時間、利用場所、ほか）を明らかにし、本補助事業実施の前後で比較して効果を検証する（機器利用状況に関する定量的評価）。

評価

（１）アンケート結果について（抜粋）

- 週 4 日以上 iPad を使用した学生は 21 名 / 48 名（43.8%）となり、ほぼ日常的に使用した学生は 4 割超であった
- 自宅で iPad を利用した学生は 27 名（56.3%）であり、大学内のみならず、半数以上の学生が自宅でも iPad を使用していたことが明らかとなった
- iPad を貸与したことによって、半数以上（6 割程度）の学生に何らかの変化が生じたことが明らかとなった（図 1）
- 『やや満足』『満足』と回答した学生は 39 名（81.3%）であり、大部分の学生が iPad を使用する活動に満足感を得ていることが確認された（図 2）

この結果から、iPad の貸与を通じて学生の IT 機器に触れる機会が増大し、かつ大部分が満足したことが明らかとなり、一定の効果があつたといえる。

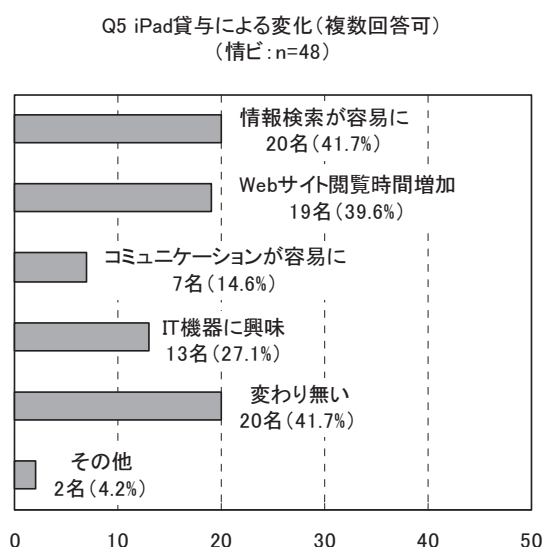


図 1 iPad 貸与による変化

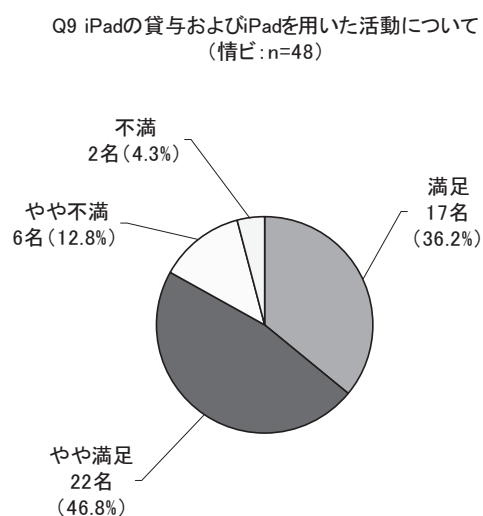


図 2 iPad を用いた活動の満足度

（２）学内ネットワークシステム等の利用実績について（抜粋）

平成 22 年度の学内無線 LAN システムの利用状況を調査したところ、学生の利用は日あたり最大 2～3 ユーザ（全学）であった。これは、個人でノートパソコンを持つ学生による利用であった。一方、平成 23 年度については、前年度と大きく異なり、日あたり最大 93 ユーザ（全学、うち当該学部については 49）となった。

以前から本学には IT 環境が整備されていたものの、その利用者はごく少数の IT に慣れ親しんだ学生に限られていた。本事業の iPad 貸与を通じて、多くの学生に無線 LAN（ネットワーク）利用を経験させることができ、事業目的である IT リテラシー習得の一助になったものと評価できる。

3. 今後の課題点

実施結果および評価結果より、今後は以下の課題について対応を検討する必要がある。

- iPad の利用頻度を高める方策を検討する。これには、プロジェクト、講義・演習での積極利用が必要であるため、支援体制の充実化（ポータルサイト等のコンテンツの充実化・周知、相談窓口の検討等）を行う。また、IT 機器の取り扱いが不得手な学生に対する興味喚起ため、講義に限らず学生生活や就職活動に役立つアプリを準備する等、iPad 利用機会を増やす仕掛けを検討する
- 就業力において重要な部分を占める学生の基礎学力の向上のため、e-learning システムの一層の活用を進める。これを行うためには、教職員が活用する上での問題や障害を把握し、それを解消する方法を検討し実施しなければならない
- 学生の IT スキル向上を図るには、指導する側である教職員の IT 活用スキルが強く影響することから、ポータルサイトを通じたチュートリアル（動画素材含む）などの情報揭示や勉強会の開催などを行い、学生とともに教職員に対する支援体制も強化する。質問や相談事項については、FAQ などの形式にまとめ、ポータルサイトを通じて情報を共有できる方法を検討する
- 『大学と学生をインタラクティブに結ぶ』仕組みを構築できていないため、インタラクティブ性を重視したアプリケーション・システムの準備を検討する。

4. その他

現在、平成 24 年度中に全学年（学部・情報ビジネス学部キャリアデザイン学科、経営学部経営学科、短大部：キャリアプランニング科）に iPad を貸与し、全学的に活用できるようにすることを計画中である。これにより、授業等での利活用を阻害する要因（持たない学年・学生がいて使用し難い、等）が排除され、iPad の効果的な活用方法の創出および実施に繋がると期待される。

【本グループ事業関連サイト】

- ポータルサイト <http://project.sozo.ac.jp/>
- Handbook Studio <http://handbook.sozo.ac.jp/>

1. グループ事業の取組

学生個々に配布された iPad を活用し、プロジェクトを円滑に進めるために、プロジェクト管理アプリを有効利用し、学生間での情報交換を活発にする。

2. 活動成果

各プロジェクトにおいて当初は活用されていたが、いつも顔を合わせているメンバーということもあり、ゼミによっては次第に利用状況が下がり、ファイル共有程度の利用だけになっていたことは否めない。しかしながら、客観的に進捗状況を把握するためにも、アプリの活用は必須であるとする。

当初の見込みと違い、就職活動で活用をされていたことは嬉しい誤算であったかもしれないが、その結果、就職に結びついたかどうかは集計していない。

3. 今後の課題点

当初、個人的に予定していた Handbook の活用が中途半端に終わってしまったため、次年度は医療秘書検定対策問題集などの構築を進めていきたい。

また、せっかくのアプリであるの、他のプロジェクトの状況が共有できると更に活用が進むのではないかという意見があった。

4. その他

iPad 自体は学生にも概ね好評であり、高校での進路相談会でも興味を持つ生徒が居た。学生たちが使いこなせるかという心配は杞憂であったので、活用方法を学生に考えさせることも検討したい。

iPad 利用状況等調査アンケート【共通】

持続型職業人 SOZO プロジェクト委員会

このアンケート調査は、文部科学省 大学改革推進事業・採択「持続型職業人 SOZO プロジェクト」において貸与した iPad の利用状況等を把握し、今後の運営方法等の改善や計画立案に役立てることを目的として実施するものです。4 月からの iPad 利用状況、および、これまでの利用を踏まえたうえでの意見など、以下の質問事項に回答してください。

学部・学科（該当に○）	・ 情ビ・キャリアデザイン学科		・ 短大・キャリアプランニング科	
学年（該当に○）	1年	2年	3年	4年

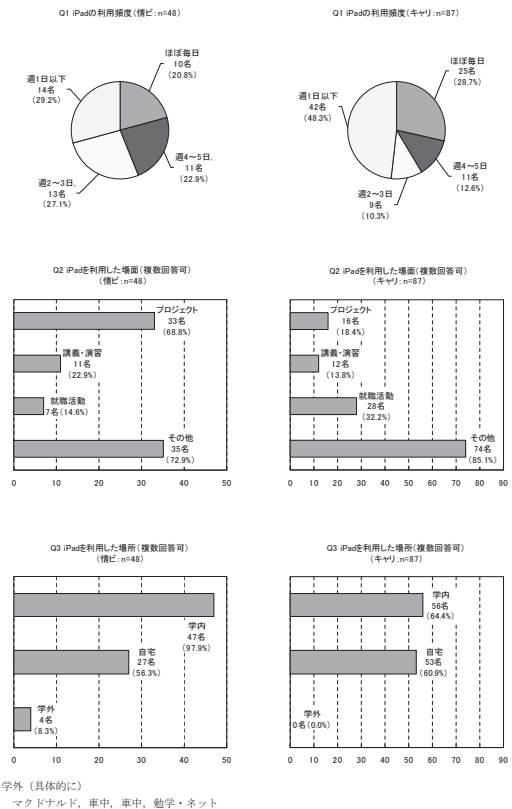
	質問事項	回答（該当する項目を“○”で囲む）			
Q1	iPad の利用頻度	ほぼ毎日	週 4～5 日	週 2～3 日	週 1 日以下
Q2	iPad を利用した場面（該当するもの全てに○）	プロジェクト	講義・演習	就職活動	その他
Q3	iPad を利用した場所（該当するもの全てに○）	学内	自宅	学外 (具体的に)	
Q4	自宅のインターネット接続環境について	Wi-Fi(無線 LAN)環境がある		Wi-Fi(無線 LAN)環境がない	
Q5	iPad を貸与されたことにより、あなたの生活にはどのような変化が生じましたか？ (該当するものすべてに○)	・ 情報の検索が容易になった(インターネットが身近になった) ・ インターネット(Web サイト)を閲覧する時間が増えた ・ コミュニケーションを取りやすくなった ・ IT 機器(モバイル端末等)に興味を持つようになった ・ 特に変わりは無い ・ その他 (具体的に)			
Q6	iPad にインストールしたアプリについて (Handbook, プロジェクト管理アプリを除く)	有料アプリをインストールした (掛けた費用: 約 円)	無料アプリのみ	インストールしていない	
Q7	iPad 利用上のトラブルや不具合について、どのようにして解決しましたか？ (該当するものすべてに○)	・ ポータルサイトにあるマニュアルを調べた ・ インターネットで検索して調べた ・ サポートセンターや教員に相談した ・ 家族・友人に相談した ・トラブルや不具合はなかった ・ その他 (具体的に)			
Q8	iPad 利用に関する支援について、今後望むことはありますか？ (該当するものすべてに○)	・ もっと説明会を開いて欲しい ・ もっとマニュアルを充実して欲しい ・ もっとポータルサイトに情報を提示して欲しい ・ 気軽に相談できる場所(人)や時間を設けて欲しい ・ 特になし ・ その他 (具体的に)			
Q9	(全体を通して) iPad の貸与、および、iPad を用いる活動について	満足	やや満足	やや不満	不満
Q10	その他（意見や感想等を自由記述）				

※本アンケートで収集した情報については、アンケートの目的（今後の取り組み改善の検討）のみに使用し、他の目的に使用されることはありません。

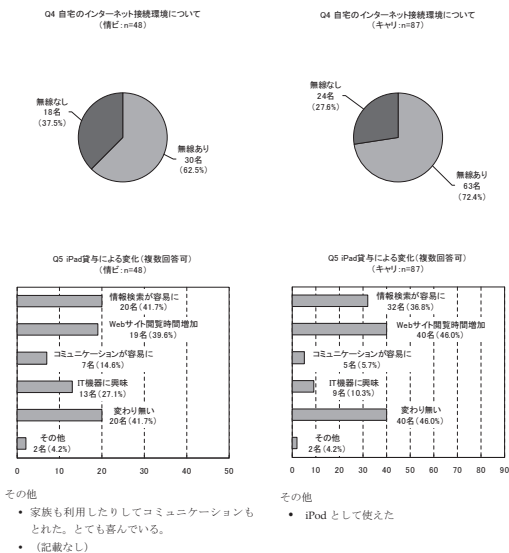
ユビキタスキャンパスグループ アンケート回答集計結果 (1/5)

ユビキタスキャンパスグループ アンケート回答集計結果

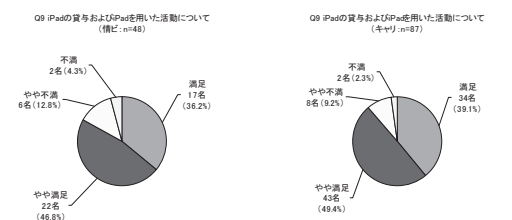
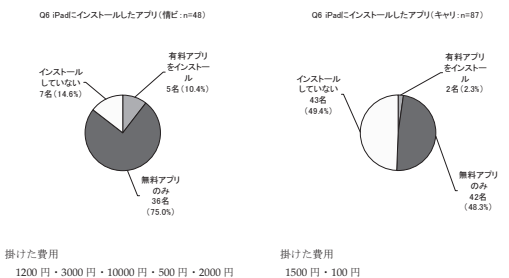
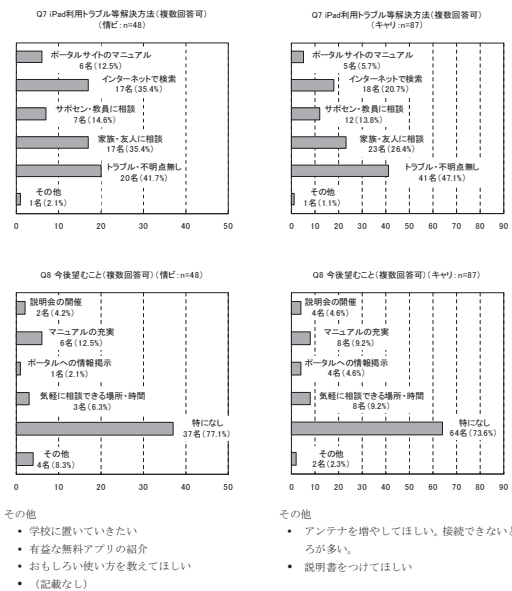
情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科 12 月 22 日（48 名）実施
短期大学部 キャリアプランニング科 12 月中（87 名）実施



ユビキタスキャンパスグループ アンケート回答集計結果 (2/5)



ユビキタスキャンパスグループ アンケート回答集計結果 (3/5)



Q10 その他（意見や感想等を自由に記述） （情比）	Q10 その他（意見や感想等を自由に記述） （キャリア）
・ iPad は持ち運びするにはやや重たい気がします。個人ロッカーがあると便利です。（A） ・ とても役に立ちます（B） ・ どこでも使いたい為に、小型の無線 LAN など支給して欲しい（B） ・ 大学に保管場所が欲しい（B） ・ どう使えばいいか、わからなかった（C） ・ 特に iPad の必要性を感じることがなかった（D）	・ ありがとうございます。（A） ・ iPad があってとても役に立ちました。（A） ・ iPad を貸与していただき、ありがとうございます。（A） ・ iPad 欲しい！！（A） ・ iPad 便利なので、買取りしたかった！！（A） ・ とても便利であった（A） ・ iPad 欲しい！！（A） ・ 大学でこのような機会を増やしてくれたことはとても良かったですし、身近でふれられて嬉しかったです。ありがとうございます。（A） ・ i-pad を通して、色々の知識や使い方が分かって良かったです。（A） ・ 個人ではノートパソコンを持っているので iPad を買うことはないと思います。でも使ってみたいと思っていたので使わせていただき感謝しています。（A） ・ iPad ほしい！！毎日 YouTube or 音楽流しながら化粧してた。（A） ・ 新しい iPad とか出てるから次の人にそれ買ってうちにあの iPad 下さい。（A） ・ PC より使いやすくてよい。（A） ・ ダンスを練習するときとても便利だった。（B） ・ 便利でした。（B） ・ iPad がほしい！！！！！！（B） ・ もっと長く貸してほしかった。（B） ・ 自分が使っていた iPad がほしいです。（B） ・ iPad 貸出は必要ないと思う。（B） ・ 特に使う機会も少なかったのも、いいとマツぶしのオモチャにはなった程度だった。何のために配布されたのか分からなかった。（C） ・ 持ち運ぶのが重たいし、インターネットにつながらなかったりあまり活用しなかった。（C） ・ 重だけだった。iPad を活用する授業を作ってほしいと思った（C） ・ パソコンがあるから使わない。限られた場所しかネットとか使えないなら必要ない。（C） ・ iPhone があるのでほとんど利用しませんでした。（D）

※ 文末の記号（・）は Q9 の回答結果を表す

- (A) 満足
(B) やや満足
(C) やや不満
(D) 不満

集計結果について

Q1 iPad の利用頻度

- ・ 週 4 日以上使用した学生は、情比で 21 名/48 名（43.8%）、キャリアで 36 名/87 名（41.4%）であった
- ・ 一方、週 1 日以下と回答した学生が情比で 14 名（29.2%）、キャリアで 42 名（48.3%）であり、一部の学生はほとんど iPad を活用できていなかった事実が明らかとなった（関連：Q2）

Q2 iPad を利用した場面

- ・ 『プロジェクトで使った』と回答する学生が少なかった。次年度以降は、『プロジェクト』および『講義・演習』での利用率を高めていく必要がある（関連：Q1）

Q3 iPad を利用した場所

- ・ 自宅で iPad を利用した学生が情比で 27 名（56.3%）、キャリアで 53 名（60.9%）となった。大学内にどまらず、半数以上の学生が自宅で iPad を使用していたことがわかる。自宅のネット環境に依存していることが予想される（関連：Q4）

Q4 自宅のインターネット接続環境について

- ・ 情比で 62.5%、キャリアで 72.4%の学生の自宅に無線 LAN 環境があることがわかった。およそ 3 分の 1 の学生宅に無線 LAN 環境が無いため、講義で活用（自宅における自習・予習等を前提とする）する際は配慮や工夫が必要である（関連：Q3）

Q5 iPad 貸与による変化

- ・ 『変わり無い』と回答した学生が情比で 41.7%、キャリアで 46.0%となったものの、iPad を貸与したことによって半数以上の学生には何らかの変化が生じたことがわかった

Q6 iPad にインストールしたアプリ

- ・ キャリブラにおいて『インストールしていない』と回答する学生が約半数であった。Q1 のほとんど活用していない学生が該当するものと予想される（関連：Q1）
- ・ 有料アプリをインストールする学生は少数であった。有料アプリの導入手順をマニュアル化していなかったことも一因と考えられるため、準備していく必要がある

Q7 iPad 利用上のトラブル等の解決方法

- ・ ポータルサイトはほとんど活用されていないことが明らかとなった。今後はポータルサイトの充実化を図る予定である（関連：Q6・Q8）

Q8 iPad 利用に関する支援について今後望むこと

- ・ マニュアルの整備や、サポート体制（相談場所・時間）の強化が望まれているため、検討していく必要がある

Q9 iPad の貸与および iPad を利用した活動について

- ・ 『やや満足』『満足』と回答した学生は、情比で 39 名（81.3%）、キャリアで 77 名（88.5%）となり、大部分の学生が iPad を使用する活動に満足感を得ていることが確認された

『やや不満』『不満』と回答した学生について

- ・ iPad の利用頻度が極めて低く（全員週 1 日以下の利用）、プロジェクト活動でも利用されていないようである
- ・ 全学生の傾向と比較して、自宅の無線 LAN 環境の整備率は低いようである
- ・ 『トラブル・不明点』は無く（＝使用していないため）、また、今後望むことは『特になし』という回答が多数であり、iPad（IT 機器・携帯情報端末）に対して当初から興味が無い様子がうかがえる

アンケート結果を踏まえた今後の改善について

- ・ iPad の利用頻度を高める → プロジェクト、講義・演習での積極利用が必要（教員の努力）
- ・ それを支援する体制の整備 → ポータルサイト等の充実化・周知、相談窓口の検討
- ・ IT 機器の取り扱いが不得手な学生に対する興味喚起策の検討
 - iPad 配布当初の説明方法が重要（便利な使い方を教授）
 - 講義に限らず、学生生活や就職活動に役立つアプリを準備（既存アプリ／独自開発アプリ）

担当 中 村 隆 三

1. グループ事業の取組

卒業生との大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育の展開については、これまで輩出した卒業生とのパイプを活かし人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学生との交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開することを目的として活動に取り組む。

学部では、卒業生と在学生の交流を推進する関係構築の足掛かりとして、平成 23 年度豊橋創造大学同窓会総会の会場を利用し、教職員と卒業生の『卒業生業界別交流会（学部）』を行い、就労状況に対するアンケート・ヒアリング等の情報収集を行う。短期大学部では豊橋創造大学短期大学部同窓会第 27 回総会終了後にキャリアプランニング科在学生と短期大学部卒業生を対象とした『在学生&卒業生交流会』を開催。

また、毎年卒業後 3 年の卒業生対象に就業状況についてのアンケートを実施する。

2. 活動成果

「就業に関するアンケート」

平成 23 年 3 月 卒業生対象に就業に関するアンケートを実施

平成 23 年 4 月 卒業生対象（平成 20, 21, 22 年度卒）就業に関するアンケート追跡調査

平成 24 年 2 月 卒業生対象（平成 21, 22, 23 年度卒）就業に関するアンケートを実施

「卒業生業界別交流会（学部）」

日時：平成 23 年 9 月 24 日（土） 18:50 ～20:00（同窓会総会後）

会場：ホテルアークリッシュ豊橋

参加者：卒業生 60 名 教職員 21 名 JSSP スタッフ 5 名

設置した業界別交流グループ一覧

・金融保険・建設業・製造業・サービス・卸小売 1, 2・情報通信 1, 2・医療理学・その他

内容：業界ごとに分かれ、勤務状況や後輩に期待すること等、教員を囲んで和やかな雰囲気での懇親会を行った。

※大学 HP に様子を掲載 <http://www.sozo.ac.jp/campus-news/2011/110924.php>

「在学生&卒業生交流会（短大部）」

日時：平成 23 年 10 月 23 日（日） 13:00 ～

会場：豊橋創造大学 A32 教室

参加者：在学生 11 名 卒業生 12 名

内容：①在学生による JSSP プロジェクトの中間発表

細谷ゼミ・千賀&中島ゼミ

朝倉ゼミ・村松ゼミ：抄録・ポスター発表のみ

②卒業生から在学生へのメッセージ

※大学 HP に様子を掲載 <http://www.sozo.ac.jp/campus-news/2011/111023.ph>

持続型職業人 SOZO プロジェクト プロジェクト成果報告書（グループ事業）

卒業生対象の就業に関するアンケートから卒業後 3 年間の離職状況調査分析を行い、本学の離職率は、3 年目は低いものの、1 年目は全国平均より高く、離職原因 1 位は人間関係であることが分かった。ここから社会の厳しさ、離職防止に対して教育的対策（コミュニケーション力、メンタルタフネス）の検討がすすめられた。

それぞれの交流会では、業界・就職先の特徴・現状が把握でき、この内容は就職ガイダンスを通じて現役学生の就職指導に活かしていくことができるものとなった。また、本学が実施するキャリア形成の授業講演・就職ガイダンスでの業界研究指導・就職合宿、就職激励会等で、在学生の指導を行う有望な OB 人材の発掘を行うことができた。在学生 & 卒業生交流会（短大部）では、在学生と卒業生の活発な意見交換ができたことにより、在学生には大きな刺激となった。特に就職活動で苦労した体験談は学生だけでなく、教職員にとっても今後の指導に活かせるものが多く大変有意義であった。

3. 今後の課題点

卒業生業界別交流会（学部）は今回、同窓会総会終了後に行った。本来、同窓会総会の目的と本学の就業力育成支援事業の目的はそれぞれ異なっており、開催にあたって同窓会役員から不安の声が上がった。相手の立場を如何に理解して、調整、融合、協力し、相乗効果を上げていくかが大きな課題であるが、開催方法について今後検討を続けることになった。

在学生 & 卒業生交流会（短大部）では、実施したこと自体は有意義であったと言える。参加人数が少なかったことは今後の課題であるが、今回のように小規模での実施の方が活発な意見交換がなされと考えられる。

卒業生との大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育の展開については、これらの交流会開催だけが目標ではなく、卒業後の早期離職を防ぐことも重要な目的である。多くの卒業生を地元へ輩出してきた強みを生かし、社会活動が豊富な卒業生との交流ができる仕組み作りを進めたい。

4. その他

特になし

※ページ数は、3 枚以内でお願い致します。

平成 21 年、22 年、23 年
3 月卒業のみなさまへ

平成 24 年 2 月吉日

豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部
キャリアセンター

卒業生アンケートご協力をお願い

卒業生の皆様には各方面でますますご活躍のこととお喜び申し上げます。
さて、本学での取り組み『持続型職業人 SOZO プロジェクト』が文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択され、この事業の一環として就業に関するアンケートを実施いたします。
卒業生皆様の協力なくしては成り立たない事業のため、大変お忙しい中、恐れ入りますが、母校の発展のため、アンケートの回答にご協力をお願い申し上げます。
末筆になりましたが、皆様とご家族のご健康、ご発展をお祈り申し上げます。

【対象卒業生】平成 21 年、22 年、23 年 3 月卒業生

豊橋創造大学 (経営情報学部・情報ビジネス学部)
豊橋創造大学短期大学部(キャリアプランニング科)

【回答方法】

同封ハガキにて平成 24 年 3 月 31 日までにご回答ください。

※ご回答がない場合は、電話にて確認させていただく場合がありますのでご承知おください。

卒業後 3 年間調査を必要のため今後もアンケートをお願いさせていただきます。
その際にはご協力をよろしくお願いいたします。

アンケートの問い合わせ先
キャリアセンター 富安・中村
E-mail : job@sozo.ac.jp TEL : 050-2017-2104 FAX : 050-2017-2112

* 本調査は、個人情報保護法にそって、①本学のキャリア教育におけるデータとしての利用、②在学生の就職活動に関する情報提供、③本学からの書類等送付(同窓会活動含む)のために住所等の最新情報への更新に限りって利用させていただきます。その他の目的に利用することは一切ありません。

文部科学省 平成 22 年度「大学生の就業力育成支援事業」【22 年度～26 年度計画】

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部 共同申請

取組名称『持続型職業人 SOZO プロジェクト』
～2 年以内の早期離職防止を目指したメンタルタフネスとスキルの育成～

大学生の就業力育成支援事業とは？

この事業は、各大学・短期大学（以下、「大学」という。）において、入学から卒業までの間を通して全学的かつ体系的な指導を行い、学生が次のようなプロセスを繰り返し、その社会的・職業的自立が図られるよう、大学の教育改革の取組を国として支援するものである。

取組概要

「持続型職業人 SOZO プロジェクト」は、豊橋創造大学と同短期大学部が共同で推進するメンタル面とスキル面との両方の強さを備えた職業人育成を目的としたプロジェクトです。以下の 4 つを柱として社会的・職業的自立に繋がる学生の就業力育成を目的としています。

(1) メンタルタフネスの育成

セルフモチベーション講座、リーダーシップ講座、目標設定・目標達成講座などの理論的背景と実践演習を組み合わせて学生自身の経験知を高める教育プログラムを開発・展開する。
メンタルタフネス会宿講座 4 回 ヒューマンアセスメント講座

(2) 実践的スキルのブラッシュアップ(プロジェクトマネジメント体験)

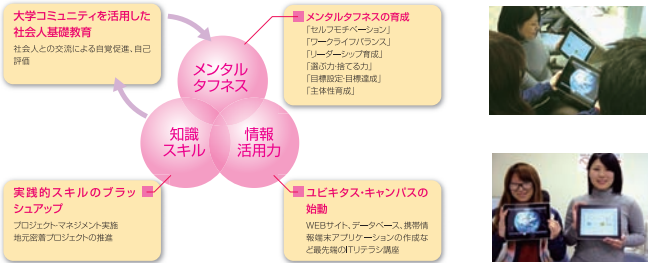
学生自身が企画・立案・運営する学生プロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、そのプロジェクトの運営を通して、学生自ら気づき・学ぶ「創造プロジェクト」を推進する。そのプロジェクト運営を通して「プロジェクトマネジメント体験」やプロジェクト運営に不可欠なウェブ検索サイトや携帯情報端末アプリケーション開発・運用をする。

(3) コピキタス・キャンパスの始動

「持続型職業人 SOZO プロジェクト」に特化した WEB サイト・データベースの構築・運用や大学と学生をインタラクティブに結ぶための IT リテラシーを体験させる事業を展開する。
携帯情報端末活用

(4) 大学コミュニティを活用した社会人基礎教育の展開

これまで輩出した卒業生とのパイプを生かし人的ネットワークを再構築し、その社会活動豊富な卒業生と在学生の交流を推進し、学生の社会人力の養成を行う事業を展開する。
OB・OG・同窓会と連携した求人開拓



豊橋創造大学 豊橋創造大学短期大学部
卒業生アンケート回答

- Q1. 卒業後、離職又は転職をされましたか
1. はい () 回) 2. いいえ () (どちらかを選択してください)
- Q2. 離職又は転職された理由を教えてください。
(第 1 理由① 第 2 理由②を付けてください)
1. 仕事内容が予想と違った 2. 会社に馴染みがないと思った
3. 適任の人間がなかった 4. 労働環境が良かった (付随であった)
5. 給与水準が低かった 6. 人間関係が悪かった
7. 家族や私的な事情 (結婚を含む) 8. 期間満了の採用であった
9. キャリアアップのため
10. 前の職場より待遇 (給与水準、休日等) がよかった

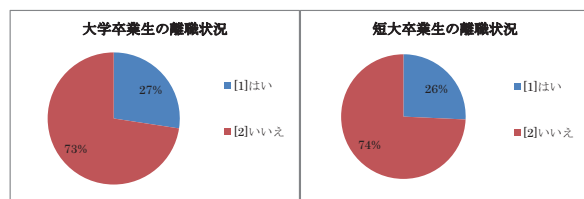
卒業時	会社名	退職年月日
	部署・職名	
	正社員・非正規・自営・家業・無職	
現在	会社名	退職年月日
	部署・職名	
	正社員・非正規・自営・家業・無職	
その他の氏名	氏名 () 学類番号: ()	
〒	〒	
現住所	〒	
電話番号	電話番号	

平成 24 年 3 月 31 日までに「ご回答ください」
ご協力ありがとうございました

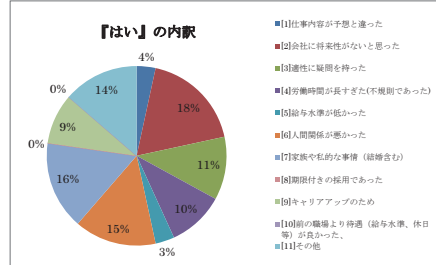
4 4 0 8 5 1 1

豊橋創造大学
キャリアセンター行
愛知県豊橋市牛川町字松下二〇一

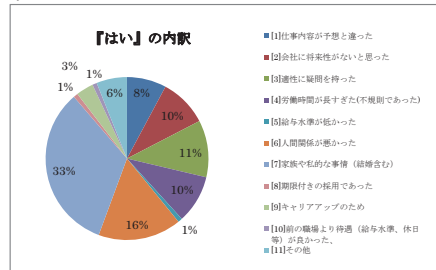
Q1. 大学卒業後、離職または退職しましたか？
対象：過去3年間（2007・2008・2009年度）卒業生



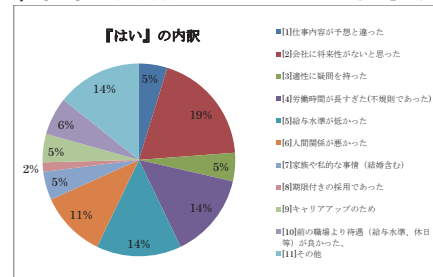
Q2. 【大学】大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第1理由



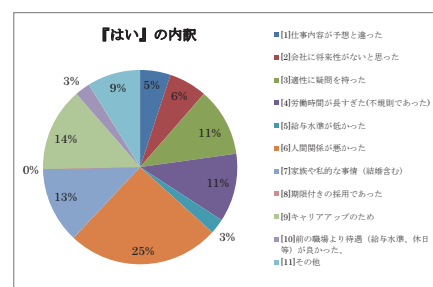
Q2. 【短大】大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第1理由



Q2. 【大学】大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第2理由



Q2. 【短大】大学卒業後、離職または転職をされましたか？『はい』の第2理由



所 属	定 量 的 指 標	達 成 目 標	平成 22 年度末
大 学	卒業後、1年以内の離職率の減少	就職者の 1.5 割以下	19.2%
	卒業後、2年以内の離職率の減少	就職者の 2 割以下	26.4%
	卒業後、3年以内の離職率の減少	就職者の 3 割以下	33.3%
短 大	卒業後、1年以内の離職率の減少	就職者の 1.5 割以下	23.5%
	卒業後、2年以内の離職率の減少	就職者の 2 割以下	25.0%
	卒業後、3年以内の離職率の減少	就職者の 3 割以下	26.2%